タイトル：ぼくとおにいさん
学校名・学年：吹田市北山田小学校１年
名前：天野　将

（本文）
　ぼくは、アンリミテッドスポーツフェスティバルのりくじょうたいかいに、いきました。おねえちゃんがはしるのを、おうえんしにいきました。
　アンリミテッドスポーツフェスティバルは、しょうがいのあるひとと、しょうがいのないひとと、かんけいなしで、おなじルールでしょうぶするたいかいです。うでがないひとや、めがみえないひとや、あしがないひとがいました。くるまいすのひともいました。
　ぼくは、あしがないおにいさんが、れんしゅうしているのをみて、ちいさなこえで、
「あしがないひと、いやだ。」
といいました。でも、おにいさんに、きこえてしまいました。そのおにいさんは、ぼくに、
「あし、ないよー。」
と、やさしくわらっていいました。ぼくは、なにもいえませんでした。
　おかあさんが、ぼくに、
「それって、いっていいことば？なにがいやだったの？」
とききました。ぼくは、
「あしについているのが、こわい。」
とこたえました。あしがないひとは、あしのかわりに、ほそいロボットみたいなばねみたいなのをつけていたから、こわいとおもいました。ほんとうは、こわかったけど、いやではありませんでした。だけど、なんといったらいいか、わからなくて、いやだといってしまいました。いってから、「いったらだめだったな。」とおもいました。おにいさんが、いやなきもちになったとおもいました。おにいさんと、ちゃんとおはなししたいとおもいました。でも、おにいさんは、もうどこかへいってしまって、あえませんでした。ぼくのこころは、なんかモヤモヤして、いやなきもちになりました。
　もし、あのおにいさんにあえたら、「ごめんなさい。」といいたいです。あのあしは、ロボットみたいで、かっこよくて、おもしろそうでした。それに、おにいさんは、とてもやさしいひとでした。ぼくは、しょうがいがあるとか、ないとか、かんけいなく、そんなやさしいひとになりたいです。
　らいねん、またアンリミテッドスポーツフェスティバルにいったら、おにいさんや、ほかのみんなをおうえんしたいです。